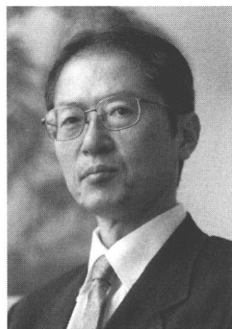


●新学長紹介 ながさき よしゆき 長坂悦敬



甲南大学学長

杉村芳美前学長の後任として、八月一日付で長坂悦敬経営学部教授が第一七代学長に就任した。任期は四年。

長坂新学長は一九五八年奈良県生まれ。一九八一年大阪大学工学部卒業。一九八三年大阪大学大学院工学研究科修士課程修了。一九九二年大阪大学より博士（工学）を授与される。一九八三年株式会社コマツ生産技術研究所、一九九四年大阪産業大学経営学部専任講師、助教を経て、二〇〇一年甲南大学経営学部助教授に着任。二〇〇三年教授となり、現在に至る。二〇〇六年から甲南大学フロンティア研究推進機構長、経営学部長、社会科学科学研究科

長、学長補佐、国際交流センター所長、ビジネス・イノベーション研究所所長を歴任している。

研究分野は管理会計、経営情報。主に融合コストマネジメント、ビジネス・プロセス・マネジメントについて研究。著書に『生産企画論』（単著、学術図書出版社）、『戦略的プロセス・マネジメントー理論と実践』（共著、税務経理協会）など。

学校法人甲南学園は二〇一九年に創立一〇〇周年を迎える。甲南大学は創立以来、創立者平生鈺三郎による教育の理念「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の特性を啓発する」を基本にして教育活動を進めてきた。知育に偏ることなく、徳育と体育を重視する「人物教育の率先」が平生理念の原点である。長坂新学長は就任にあたり、創立者平生鈺三郎の精神「人物教育の率先」に基づいた甲南大学の伝統を生かし、新たな革新を紡ぐべく、研究力・教育力・キャンパス力の圧倒的な質向上を目指したアクション・プランを立ち上げた。「融合力」を磨き、「個性を力にできる」人材を輩出し続けたいとしている。

●連盟ニュース

「国の補助金等に関する説明会（第一回）」開催

平成二十六年九月二四日、アルカディア市ヶ谷において「国の補助金等に関する説明会（第一回）」を開催した。当日は、九一の加盟大学から三十八名の教職員が参加し、「平成二十七年年度文科科学省概算要求」及び「国公立大学を通じた大学教育再生の戦略的推進」について、文科科学省担当者による報告・説明を受け、理解を深めた。その後、個別質問を希望する加盟大学に対し、質問ブースを設け、文科科学省担当者による詳細な説明、質疑応答が行われた。

「学校教育法等の一部改正に関する説明会」開催

大学ガバナンス改革の推進などを趣旨とする「学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律（以下、「改正法」という）が平成二十七年四月一日から施行されることとなった。これに伴い、平成二十六年八月二九日に「学校教育法施行規則及び国立大学法人法施行規則の一部を改正する省令」

（以下、「改正省令」という）が公布され、同日付で文科科学省より施行通知が発出された。

連盟では、改正趣旨及び内容について理解を深めるため、平成二十六年九月三日、アルカディア市ヶ谷において「学校教育法等の一部改正に関する説明会」を開催した。

当日は、九八の加盟大学から二七九名の教職員の参加があった。

この説明会では、改正法及び改正省令に関する説明とともに、加盟大学から文科科学省のチェックリストに基づき寄せられた質問事項（一）教授会の必置について、「二）学長の最終的な決定権の担保について」「三）重要事項に関する意思決定手続きについて」「四）教授会の審議機関としての性格について」「五）教授会の審議事項について」に対し文科科学省担当者から説明があり、フロアからも多くの質問が出された。本説明会は、改正法及び改正省令の内容について理解を深め、加盟大学における大学の組織及び運営体制の整備について検討する契機となった。なお、当日の質疑応答については、「Q&A集」としてとりまとめ、連盟ウェブサイト（会員専用ページ）で公開した。

University
Current Review



大学時報

奇数月20日(年6回)発行

●WEBサイトにて全文無料公開中
※第344号(2012年5月発行)から
詳細は

<http://www.shidaiaren.or.jp/activities/daigakujihou>



●公式Facebookページにて
随時、情報を発信中

<http://www.facebook.com/shidaiaren>



第357号(平成26年7月発行)

【特集】

「生活の場」から「人材育成の場」まで
一進化する「寮」の目指すもの



【座談会】

学校法人会計基準のこれ
まで、そしてこれから

【インタビュー】

遠藤貴子氏(株式会社
つ・い・つ・い代表取締役
役)

※新連載スタート

【特別連載】

高校は今ーこれからの
高大接続・連携を考える
《大阪府編》

第358号(平成26年9月発行)

【座談会】・【特集】

世界で広まるMOOC(Massive Open Online Course)
一わが国の高等教育への展開



【小特集】

日本の大学は、世界大学
ランキングにどう向き合うか
【インタビュー】
平松礼二氏(日本画家)

私立大学
フォーラム

「教わる」から「学ぶ」へ

ーアクティブ・ラーニング

平成26年12月13日(土) 13時～

同志社大学 今出川キャンパス

※無料、定員予約制(400名)

お申し込みはWEBで「私大フォーラム」と検索ください

編集後記

●平成二十六年秋の叙勲 褒章（連盟関係者）

《叙勲》

瑞宝中綬章

大久保治男

（元駒澤大学名誉教授・元常小牧駒澤大学学長）

栗須公正

（南山大学名誉教授・元常任理事）

《褒章》

紫綬褒章

竹宮恵子（京都精華大学学長）

●「理事長会議」開催

「改正学校教育法と大学ガバナンスのあり方―私立大学は何を変え、何を変えてはならないのか―」をテーマに開催（9月29日・東京）。

今般の学校教育法の改正に至る道のりにおいて、大学、政界、産業界の関係者が、大学ガバナンスの何を問題視してきたのか。また、この改正を受けて大学はどのような課題にどのように取り組むべきかについて協議することで、会員法人が自らのガバナンス・マネジメント体制を見直すとともに、必要な手だてをとる一助とすることを目的とし、六八法人九〇名の参加者による積極的な意見交換を行った。

□今回、「大学人の育成―研修に期待するものとは」と題して教員・職員の研究についてそれぞれ二本ずつ寄稿していただいた。

研修とは、あるカテゴリーに対して、到達目標を設定し、適切な時期に実施するものである。したがって大学人の育成を図るならば、教員・職員とも段階的に構成されているものでなければならぬ。全体研修ならば連続性のあるものが望ましい。そして何よりも、研修の目的が当該大学の大学人として「あるべき姿」を志向していることが不可欠である。

研修の意義はここにあるのではないか。「あるべき姿」をそれぞれ年齢や役割・職責に応じて設定し、それに到達するまでの「標準時間」を設定する。どのような教職員の将来像を描いているのか、研修制度を見れば執行部の望んでいる姿がおのずと見えてくる。研修とは構成員に対する将来への投資であり、期待であるところだ。と感ぜた。（広報・情報部門会議（大学時報委員・神戸女学院大学図書館課長補佐 宇高泰輔））

□とてもインパクトのある表紙である。一瞬驚いたが、今年はまだにこの作品が象徴的な年になったのではないだろうか。一月は芸術の秋、

座談会・特集も期せずして、芸術がテーマとなり、芸術が盛りだくさんの号となった。

特別連載「高校は今――これからの高大接続・連携を考える」は東京都編第三五七号の大阪府編に続き、高等学校教育改革の現状を寄稿いただいた。大学教育の一段階手前となる高等学校教育の取り組みをご覧いただき、大学はいかにして高等学校との学びの接続・連携を図っていくか、考える機会となれば幸いである。

インタビュは、庭師として活躍中の北山安夫氏。豊臣秀吉の菩提を弔うために妻・ねね（北政所）が開創した高台寺の庭園の修復を手がけている。現在、放映中のNHKの大河ドラマでは、秀吉を懸命に支えるねねの姿が印象深い。ところが、物語が進むにつれて、ねねが秀吉の心境の変化に心を痛める場面が多々登場する。高台寺でどのような晩年を過ごしたのか、北山氏の手により四〇〇年の時をつなぐ庭園を見渡すと、そこには現代とは異なる時間の流れが存在していた。写真や映像からでは決して得ることのできないリアルな歴史を、直接足を運んで体感していただきたい。（日本私立大学連盟事務局 春名貴明）

（大学名ABC順）
は同一学校法人

(121大学 平成26年11月20日現在)

[illegible]

大學時報 11月号

第63卷359号 (通卷373号)

平成26年11月20日発行

編集人 音 好 宏 (上智大学文学部教授)

發行人 村田晃嗣 (同志社大学学長)

発行所 一般社団法人 日本私立大学連盟

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25

電話 03-3262-4362 FAX 03-3262-4363

印刷所 凸版印刷株式会社

〒112-8531 東京都文京区水道1-3-3

小中大簡赤字高兼木高野見高村澤木名藤	林方井川木高野見高村澤木名藤	聖聖雄弘完榮和 聖健達 と貴和	敎信弘幸爾輔子勲雄太 と剛明ひ明代	政大大学社会学部教授 (上智大学学情情報局長) (関西大学広報課長) (関西学院大学入試部課長補佐) (慶應義塾大学法学部教授) (神戸女学院大学図書館課長補佐) (明治大学文学部教授) (南山大学理工学部教授) (日本大学芸術学部教授) (立教大学社会学部事務部長付) (立命館大学社会学部課長) (早稲田大学社会学部教授) (關西学院大学広報室副室長) (日本私立大学連盟事務局)
--------------------	----------------	-----------------------	----------------------	---



本誌は、WEBサイトにて、全文を無料公開しています。

詳細は、<http://www.shidairen.or.jp/activities/daigakujihou> へ

※バックナンバー（第344号、平成24年5月発行より）もご覧いただけます。

連盟WEBサイト

連盟公式Facebookページ

大学時報

GO

